

【令和8年度用 様式1-表】 令和8年度 特色ある学校づくり推進事業 計画書

学校番号	40	豊田市立 東保見小 学校	代表	小川 敬子
------	----	--------------	----	-------

テーマ	多文化共生の学校づくり	分野	a	国際交流
	サブテーマ ~かかわり合いを通して、ともに伸びていく子の育成~	(その他)は分野を右欄に記入		
学校づくりの視点(ねらい)	<p>本校には現在外国人児童(主に日系ブラジル人)が、100名ほど在籍している。どの学級にも外国人児童が在籍している状況の中で、学校づくりの大きな柱は「国際理解教育、多文化共生・共創の教育」である。異なった文化をもつ子どもたちが、お互いを理解し、相手の立場や考えを尊重しながら、共に学びを創り上げていく学校づくりをめざしている。</p> <p>互いの文化に触れて理解し合うことを支える教具の充実や、安心して活動できる環境の整備、一人ひとりに対応するための体制づくりに努め、「かかわり合いを通して、ともに伸びていく子」の育成をめざしたい。</p>			
活動内容・計画	<p>① 異文化理解 外国や日本の文化や習慣を学ぶことで、お互いを理解し合い、相手を尊重する態度が育つと考える。そのために必要となる資料や教材を準備することによって実践の幅を広げていく。 ・ポルトガル語やスペイン語、英語の図書の蔵書の充実。各国の絵本の紹介。 ・ブラジルやアメリカなどの外国や日本の文化に関する資料・教材の収集及び活用。</p> <p>② 安心・安全な環境づくり どの子どものびのびと活動することができるよう、校内整備員を活用し、校舎内や外庭など校地内の環境整備に努める。 ピア・サポート活動を推進し、異学年交流を進め、子ども同士で支えあう校風を育てる。</p> <p>③ 一人一人に対応するための体制づくり 教師と日本語指導員、心の相談員、学生ボランティアなど、できる限り多くの目で子どもたちを見守り、一人一人に寄り添った支援を充実させる。ことばの壁や文化の違いに悩む児童をはじめ、さまざまな困難さを抱える児童にきめ細やかに対応して一人一人のよさを引き出し、いじめ・不登校の未然防止と早期発見・早期対応にも努める。</p>			
補助員配置	<p>・校内整備員   ・心の相談員</p>			
実績・期待される効果	<p>① 異文化理解を深めることにより、自分とは考え方が異なる相手の考えを尊重する態度が育ち、グループ活動や集団遊びを協力して行う姿が見られるようになる。</p> <p>② 安全で整った環境の中で過ごすことにより、子どもたちの心の安定とけがのない安全な生活を保障することができる。</p> <p>③ 心の相談員や学生ボランティアの活躍や教師との連携により、子どもたちの心の安定を支え、いじめ・不登校の未然防止と早期発見・早期対応をすることができる。</p>			
検証方法	<p>・国際図書室の利用状況を確認する。</p> <p>・学校行事や学習、休み時間の活動の中で、外国人児童と日本人児童がどのようにかかわっているかを観察する。</p> <p>・環境整備の状況や、保健室利用者数の推移を確認する。</p> <p>・ボランティアや心の相談員とのかかわりの様子を観察し、相談室利用状況を確認する。</p> <p>・学校自己評価や保護者アンケートによる評価を行う。</p>			